

Asia Indicators

発表日: 2025 年 8 月 29 日 (金)

シンガポール・7月物価は4年半ぶりの低水準 (Asia Weekly(8/25~8/29))

～インド・7月生産は堅調に推移も、先行きはトランプ関税の影響が不透明要因に～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/25(月)	(シンガポール) 7月消費者物価(前年比)	+0.6%	+0.7%	+0.8%
8/26(火)	(シンガポール) 7月鉱工業生産(前年比)	+7.1%	+0.9%	+7.1%
8/27(水)	(オーストラリア) 7月消費者物価(前年比)	+2.8%	+2.3%	+1.9%
8/28(木)	(韓国) 金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.50%	2.50%
	(フィリピン) 金融政策委員会(政策金利)	5.00%	5.00%	5.25%
	(タイ) 7月製造業生産(前年比)	▲4.0%	--	+0.4%
	(インド) 7月鉱工業生産(前年比)	+3.5%	+2.1%	+1.5%
8/29(金)	(韓国) 7月鉱工業生産(前年比)	+5.0%	+4.2%	+1.6%
	(フィリピン) 7月輸出(前年比)	+17.3%	--	+26.9%
	7月輸入(前年比)	+2.3%	--	+15.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[シンガポール]～デysinフレ基調を強める一方、輸出駆け込みを受けて幅広く生産活動が押し上げられる～

25日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+0.6%となり、前月(同+0.8%)から鈍化して2021年1月以来、丸4年半ぶりの伸びとなっている。前月比も▲0.45%と前月(同▲0.08%)から2ヶ月連続で下落しており、生鮮品をはじめとする食料品物価が落ち着いた推移をみせているほか、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格も下落するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.5%となり、前月(同+0.6%)から伸びが鈍化して4ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も▲0.13%と前月(同▲0.08%)から2ヶ月連続で下落しており、幅広く財、サービス両面で物価上昇圧力が後退する動きが確認されるなど、デysinフレ基調が強まっている様子がうかがえる。

26日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+7.1%となり、前月(同+7.1%)と同じ伸びで推移している。前月比も+8.19%と前月(同▲0.76%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど堅調な動きをみせている。なお、同国においてはバイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上限に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるが、当月は前月比▲18.86%と前月(同+24.89%)に大きく拡大した反動で大幅に下押し圧力が掛かる動きがみられる。よって、バイオ・医薬品関連を除いたベースでも前月比+7.12%と前月(同▲1.66%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調さ

がうかがえる。主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産が大きく拡大しているほか、精密機械関連や一般機械関連、化学製品関連など幅広い分野で生産拡大の動きが確認されており、トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みの動きが生産活動を押し上げた可能性が考えられる。

図1 SG インフレ率の推移

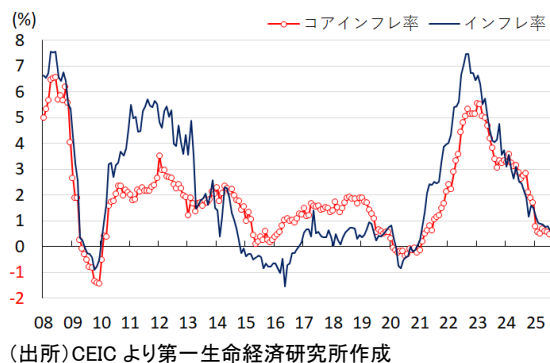
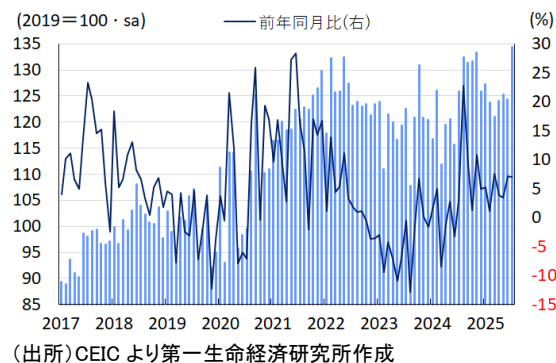


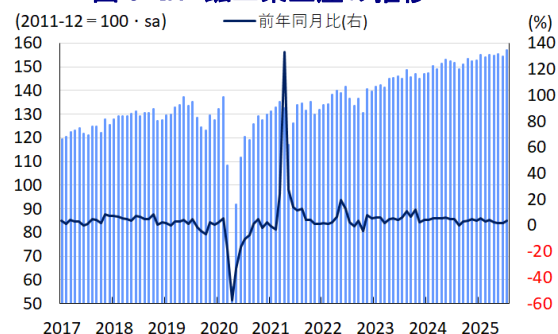
図2 SG 鉱工業生産の推移



[インド]～7月の鉱工業生産は製造業で堅調な動きを確認も、今後はトランプ関税の悪影響が懸念される～

28日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+3.5%となり、前月（同+1.5%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底打ちする動きが確認されている。国際商品市況の低迷も追い風に鉱業部門の生産は下振れする展開が続く一方、製造業の生産が底打ちする動きをみせており、資本財や中間財のみならず、消費財も耐久消費財、非耐久消費財問わず幅広い分野で生産拡大の動きが確認されており、内需の堅調さに加え、米国との通商協議を巡る期待感も生産活動を押し上げた可能性がある。しかし、トランプ米政権は同国に対する相互関税を25%とした上で、ロシア産原油や兵器の輸入に対するペナルティーを目的とする追加関税（25%）を発動させており、先行きの生産活動については急速に不透明感が高まることが懸念される。

図3 IN 鉱工業生産の推移

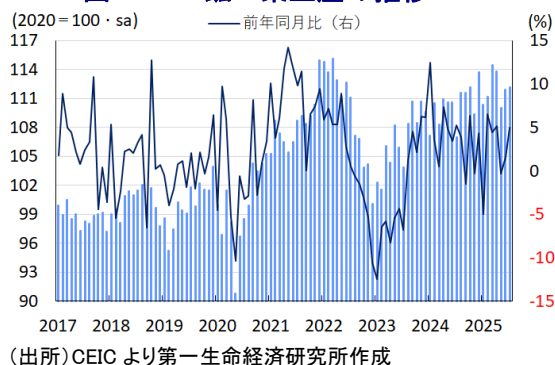


[韓国]～米国との通商協議の見通しが立たず、外需に不透明感が高まったことが7月の生産活動の足かせに～

29日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+5.0%となり、前月（同+1.6%）から伸びが加速している。前月比も+0.3%と前月（同+1.7%）から2ヶ月連続で拡大しているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。鉱業部門において生産底入れの動きが確認される一方、製造業における生産は力強さを欠くなど対照的な動きをみせている。製造業のなかでは、

電子部品関連の生産に底堅い動きがみられるものの、自動車をはじめとする輸送用機械関連や電気機械関連、縫製品関連など輸出財を中心に生産に下押し圧力が掛かるなど、米国との通商協議の見通しが立たない展開が続いたことを受けて、それに伴う先行きの外需に対する不透明感が意識されたことが生産活動の足かせになった可能性がある。

図4 KR 鉱工業生産の推移



[タイ]～トランプ関税を巡る不透明感の高まりを受け、輸出財関連を中心に幅広く生産活動に下押しの動き～

28日に発表された7月の製造業生産は前年同月比▲4.0%となり、前月（同+0.4%）から5ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲2.17%と前月（同▲1.61%）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である自動車の生産が大きく下振れする動きがみられるほか、機械製品や電気機械関連といった輸出財関連で幅広く生産に下押し圧力が掛かるなど、トランプ関税を巡る不透明感の高まりが生産活動の足かせになっている様子がうかがえる。

図5 TH 製造業生産の推移

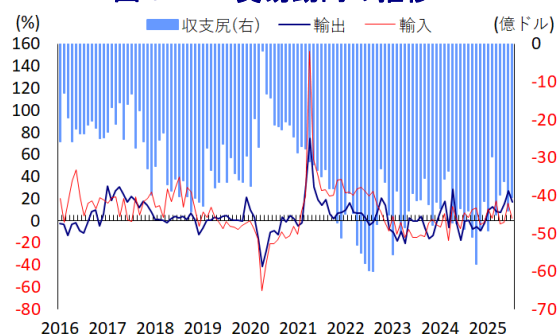


[フィリピン]～幅広く輸出に底堅い動きがみられるも、輸入は頭打ちの動きを強めるなど対照的な状況に～

29日に発表された7月の輸出額は前年同月比+17.3%となり、前月（同+26.9%）から伸びが鈍化している。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は、2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の様相をみせている上、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど堅調な動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出が堅調に推移しているほか、鉱物資源関連や化学製品関連、食料品関連など幅広い分野で輸出が拡大する動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが底堅く推移しているほか、ASEANなど周辺国向けも堅調さが続いている

上、日本向けやEU向けなども同様に拡大するなど、全般的に堅調さがうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+2.3%となり、前月（同+15.7%）から伸びが鈍化している。前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出と対照的に頭打ちの動きを強めている。財別では、半導体など電子部品関連に底堅い動きがみられるものの、国際商品市況の調整を反映して鉱物資源関連の輸入は下振れしているほか、穀物関連の輸入も鈍化している。結果、貿易収支は▲40.49億ドルと前月（同▲43.96億ドル）から赤字幅は縮小している。

図6 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。